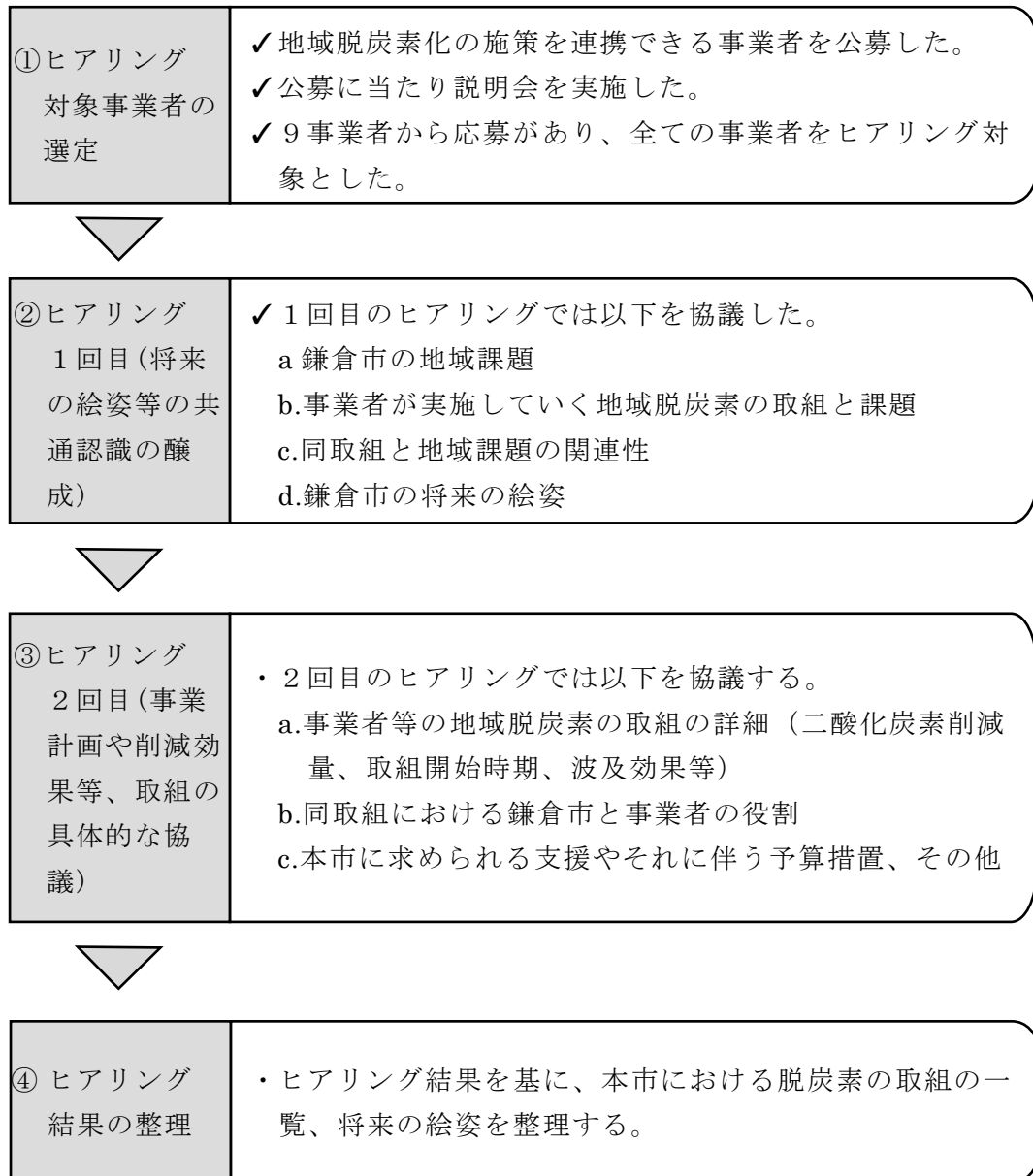


1 地域脱炭素の施策の実現に向けた事業者等との連携について

1.1 ヒアリングのフローと進捗

以下のフローに従い、鎌倉市の地域脱炭素化の施策を連携して実施できる事業者を公募しました。現在、応募のあった事業者等に対してヒアリングを進めています。



※図中の「✓」は実施済の内容を、「・」はこれから実施する内容を示します。

図 1 実施フロー

1.2 ヒアリング対象事業者の選定

1.2.1 事業者の公募

ヒアリング事業者の公募を実施しました。応募期間は令和5年10月27日（金）から令和5年11月10日（金）の2週間としました。応募条件は以下とし、応募の際に「鎌倉市内で実施したい脱炭素の事業」の提案を求めました。

- ・鎌倉市の現行施策との連動性を踏まえた、「地域脱炭素の実現」と「地域課題の解決」を同時に実現する、脱炭素の取組を提案すること。
- ・鎌倉市気候非常事態宣言に賛同していること。
- ・事業活動において法令を遵守していること。

公募にあたっては、「地域脱炭素の実現」に向けた市の取組方針の共有等を目的に、事業説明会を開催しました（令和5年10月23日実施）。市内外の11事業者、23名が説明会に参加しました。

1.2.2 公募結果

事業者公募の結果、市内外の9事業者から応募がありました。応募事業者の業種及び事業者数を表1に示します。なお、応募のあった9事業者中、8事業者は説明会へ参加した事業者でした。

表 1 業種別応募事業者数

業種	応募事業者数
IT業	2事業者
コンサル業	2事業者
公共交通事業	1事業者
運送業	1事業者
エネルギー供給事業	2事業者
製造業	1事業者

1.3 ヒアリングの実施

応募があった全ての事業者に対し、1回目のヒアリングをオンラインにて1時間程度で実施しました。1回目のヒアリングで得られた主な意見を以下に示します。

<鎌倉市の地域課題>

- ・観光客由来のCO₂排出は、鎌倉市特有の課題である。
- ・鎌倉市は道幅が狭いこと、観光都市という土地から交通渋滞が生じやすい。
- ・鎌倉市の企業は、中小企業が多くを占めていることが特徴だが、多くの中小企業は脱炭素への関心が薄い傾向にあり、対策が進みづらい課題がある。

<地域脱炭素の取組アイデア>

- ・市民の環境配慮行動に対して、ポイントや地域通貨等を付与することにより、市民の脱炭素の取組を普及啓発してはどうか。
- ・企業向けの省エネ支援アプリは、アプリ利用企業のCO₂排出量や取組効果の見える化、将来動向を確認できる。脱炭素の取組を促す仕組みとして、このようなアプリを普及させてはどうか。
- ・公共交通機関が行き届かない地域の住民は自家用車を利用せざるを得ない。このような地域へシェアサイクル等の交通手段を展開し、公共交通機関利用の促進を図ってはどうか。
- ・市内に大型物流倉庫の新設、配送トラック専用駐車スペースを設けてはどうか。路上駐車による渋滞緩和、配送に係るCO₂排出量の削減が見込める。
- ・太陽光発電、EV導入に加え、EV充電制御設備を導入し、EV充電の最適化を図ってはどうか。EVの充電最適化とは、主に①電気料金の安い時間帯に充電する、②施設に設置した太陽光発電由来の電気を優先的に充電する、③複数のEVがある時には充電タイミングを分散し電力ピークを下げつつ充電する、を指す。
- ・焼却以外による廃棄物処理（コンポストの設置等）設備を普及させてはどうか。生ごみ再資源化と廃棄物処理に係る二酸化炭素排出量の削減になる。

<その他>

- ・市からインフラ整備や設備導入の補助があると良い。

1.4 その他

今後は、2回目のヒアリングを実施するとともに、結果の取りまとめを行い、本市における脱炭素の取組の整理等に反映させます。